いっしょによんで、赤ちゃんと

はじめに・・・

お子さまのお誕生おめでとうございます
たくさんの人々の愛情に包まれて
健やかな成長をお祈り申し上げます

こんにちは　図書館です

図書館としてお祝いにかえてできることはないかと考え
「赤ちゃん絵本」(ブックスタート)についてまとめてみました。
この「いっしょによんで、赤ちゃんと」と図書館の絵本が
お役に立てばうれしいです。

気軽に図書館をのぞいてみてください。
たくさんの本たちがあなたとお子さまをお待ちしています。

絵本を読むこと　いっしょに見ること
赤ちゃんといっしょに絵本を楽しむには・・・

読み語りってなに？
　本を声に出して読んで、聞かせること
では、赤ちゃんに絵本は楽しめるのでしょうか。

４ヶ月の何もわからない赤ちゃんに
読み語りはまだ早い・・・？
字が読めない赤ちゃんでも、本を見ながら優しく語りかけてもらったり、
絵を見せてお話ししてもらうのはとてもうれしいようです。
７ヶ月頃から１歳前後になると絵本に興味を示すようになる子もいます。
この時期に言葉をかけるきっかけや、いっしょに遊ぶおもちゃとして
絵本を利用してはどうでしょう。また、赤ちゃん時代に蓄えた言葉の数々は
３歳頃、一気に花が開くように豊かな言葉となって出てきます。
また、たくさん話しかけることは赤ちゃんのこれからの心と言葉の成長に
とても大切なことです。なによりお母さん、お父さんと過ごすゆっくりとした
絵本の時間は、なにものにも代えがたい大切な体験となって子どもの心を
形成してゆきます。赤ちゃんが喜ぶ姿は大人にとってもうれしいこと。
そんな楽しいひとときのため、赤ちゃんにも絵本は必要なのです。

では何を読めばいい？
０歳の赤ちゃんはまだ視覚が充分に発達していません。
そんな赤ちゃんが初めて出会う絵本は、形や色がはっきりとしていて

赤ちゃんにも見分けやすいもの、また、言葉にリズムのあるものや
リズム感のある短い言葉が繰り返し出てくる絵本などが楽しいでしょう。

大切なことは・・・
赤ちゃんへの読み語りに決まり事はありません。
赤ちゃんの反応や表情を見ながら、ゆったりと愛情をこめて
お話ししてあげてください。
大切なのは赤ちゃんが安心して聞けること、
大好きな人から読んでもらうこと、
そして、そのふれあうひとときを持つことなのです。
赤ちゃんにも個性や発達がありますから、反応がなくても大丈夫です。
また、読み語りは赤ちゃんの生活に絶対必要不可欠なものではありません。
大人が疲れているときは無理せず休みましょう。
疲れた声で絵本を読んでも楽しくありませんものね。

最後に
少し大きくなってきたら、赤ちゃんにも性格や好き嫌いがはっきりしてきます。
本をなめたりかじったり、好みの絵本が決まってきたり、
何度も同じものを「読んで」とねだります。
また、まったく反応のない子や聞かない子もいるでしょう。
これも個性と発達の一つです。
大切なのは絵本を介していっしょにいる時間・・・。
あなたと赤ちゃんの感性でたくさんの絵本と出会ってください。

図書館へ・・・ご利用案内
どんな絵本を選んだらよいか、わからないときはどうぞ図書館へお越しください。
交野市内には４つの図書施設と自動車文庫があります。
お一人の貸出カードで１０冊まで、期間は２週間借りることができます。
もちろん０歳の赤ちゃんから貸出カードは作ることができます。
貸出のほかにもおはなし会などの行事やどんな本があるのかなどを
パソコンで調べることもできます。
たくさん本を借りて読んであげてください。その中でずっと離さない本が出てきたら、
その本を買ってあげてください。きっと宝物になりますよ。
本屋さんより図書館へ・・・。
図書館でお待ちしています。

今日お話したことはお渡しした「いっしょによんで、赤ちゃんと」の冊子にも
書いてあります。絵本選びのお役に立てたらうれしいです。ご参考になさってください。
また、健診の最後の個別相談にも図書館職員がおりますので、
読み語りや本のことで何かわからないことがあれば、声をかけてください。

はじめてのえほん　赤ちゃんが初めて出会うと楽しい絵本

いない　いない　ばあ

松谷　みよ子　著　　瀬川　康男　絵
（童心社）

本を開くと、ねこが手で目を隠して「いないいない･･･」、次のページで「ばあ」、この繰り返しが続きます。

手で隠された顔が次のページではしっかりと出ており、その目はまっすぐに正面を見ています。白目の中に黒目･･･。実はここが最大の魅力。視力がはっきりしない赤ちゃんにとって、白黒の対比やページいっぱいに描かれた動物の表情は、とても興味のあるものです。また、ページをめくると展開や驚きが待っているという、絵本の特性を活かした作品です。耳になじみのよいやさしい言葉、目に飛び込んでくる絵、大好きな繰り返し･･･。この絵本が世に出て約４０年、長い間読み継がれるのは、きっとこんな理由からでしょう。

赤ちゃんへの初めての絵本としてオススメです。

くっついた

三浦　太郎　作・絵
（こぐま社）

「きんぎょさんときんぎょさんが･･･くっついた」「あひるさんとあひるさんが･･･くっついた」そして、最後にくっついたのは、一体なんでしょう！

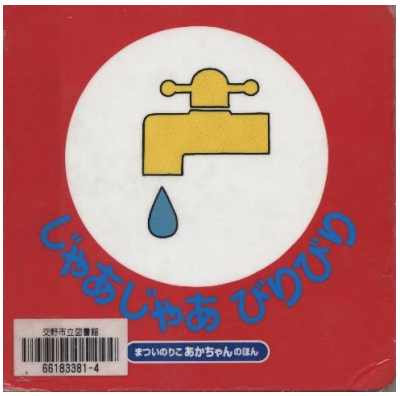
「くっついた」その繰り返しが楽しい絵本です。優しい色使いを基調として、シンプルなかわいらしい絵で描かれています。赤ちゃんは人とふれあうことが大好き。この絵本も作者と０歳の我が子とのふれあいの中から生まれたそうです。

「くっついた」で、ぎゅっと抱きしめたり、ほっぺとほっぺをくっつけたりして、赤ちゃんとのスキンシップを楽しんでください。何度も繰り返すたびに、ふれあうことの楽しさや喜びを肌で感じることでしょう。赤ちゃんだけでなく、まわりの大人もほんわかした幸せな気持ちになれる絵本です。

おと・ことば　音や言葉の響きが楽しい絵本

じゃあじゃあ　びりびり

まつい　のりこ／さく　　（偕成社）



生活に身近な“もの”と“音”が登場する小さな絵本です。「じどうしゃ　ぶーぶーぶーぶー」「いぬ　わんわんわんわん」「みず　じゃあじゃあじゃあ」など、暮らしの中でよく目にするものが、擬音語でリズミカルに表現されています。ものの特徴をとらえた優しい言葉は赤ちゃんの耳に馴染みやすいので、語りかけにも楽しく読める絵本です。絵はシンプルな切り絵で、色はメリハリがあり、赤ちゃんの目をひきつけます。また、持ちやすく破れにくい“ボードブック”なので、おもちゃの一つとして取り入れてもよいのではないでしょうか。

ごぶごぶ　ごぼごぼ

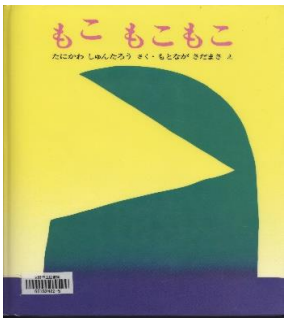
駒形　克己／さく　　（福音館書店）

ページを開くと、丸い絵に「ぷーん」の言葉。次のページには、丸い絵に「ぷく　ぷくぷくぷくん」の言葉。丸はさまざまな形へと変わり、それに合わせた言葉も変化します。どれも、意味をもたない感覚的な言葉ですが、赤ちゃんはこの言葉の響きと丸の形に釘付けです。

各ページに指を入れたくなるような穴があいているのも、この本の魅力の一つです。色使いは、はっきりとして、少ない色で丸をうまく表現しています。各ページは丈夫な厚紙で、さわっても破れにくくなっています。

もこもこもこ

谷川　俊太郎／作
もとながさだまさ／絵　（文研出版）



縦２９・横２３センチの大きめの絵本です。黄、青、緑などの配色をベースに奇妙な絵や形、「しーん」「もこ」「もこもこ」「にょき」と言葉が付きます。絵というよりモダンアート、言葉というより音、詩人と芸術家が織りなす不思議な絵本です。

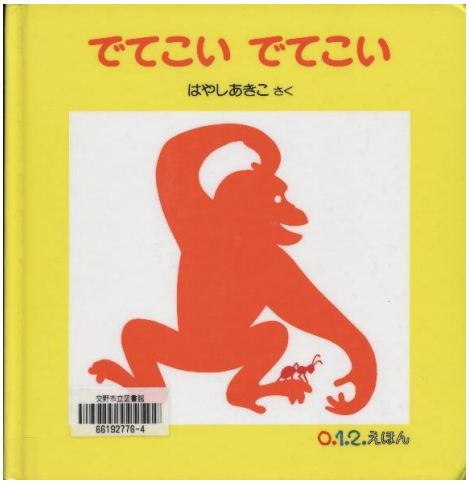
初版は１９７７年、赤ちゃんから大きな子までをとりこにする息の長い絵本です。

音や言葉の絵本からわかるのは、音の響きにはいろんな受け取り方があること、描かれた絵や配色に力があること、そして、この絵と音に子どもは引き寄せられるということでしょう。大人は意味を考えたり、何かを理解しようとしますが、子どもはただ純粋に楽しみます。楽しいこと…、それは動かない絵に動きを感じたり、意味のない言葉にイメージをふくらませたりする「想像する力」です。それが絵本を読んでもらう醍醐味なのかもしれません。

どうぶつ　動物の親子や生態が描かれている絵本

でてこい　でてこい

林　明子／作　　（福音館書店）



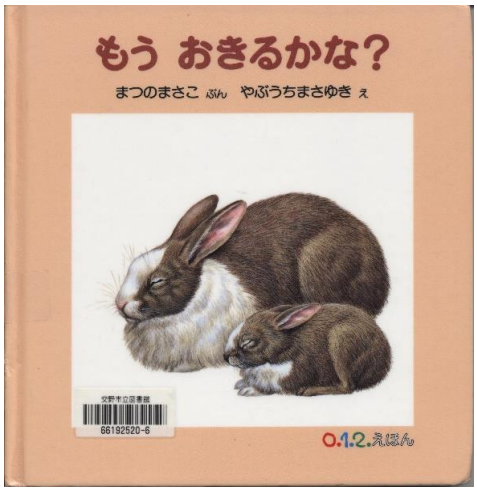
表紙をめくると、緑の葉っぱが１枚。「だれか　かくれてるよ　でてこい　でてこい」の呼びかけで、次のページに「げこ、げこ、げこ」。カエルが元気にとびだしてきます。続いて、ピンクの五角形からウサギが、青い円からはアヒルの親子が…、と同じ展開がテンポよく繰り返されます。

だれがかくれているのかな？何が出てくるのかな？といったワクワク感が味わえる一冊。切り絵調のイラストと動物をイメージしたと思われる色と形で構成されています。オマケのような小さな動物の絵も楽しい本です。

１ページずつが普通のものより分厚い“ボードブック”なので赤ちゃんが一人でめくる楽しみもあるでしょう。

もう　おきるかな？

松野　正子／ぶん
やぶうちまさゆき／え　（福音館書店）



ねこ、いぬ、リスなど、小さな子どもにもおなじみのかわいい動物たちが、親子で次々と登場する絵本です。丸くなっていたり、横をむいていたり、動物によってさまざまな格好で眠っている姿がていねいにかわいらしく描かれています。

「もう　おきるかな？」の問いかけでページをめくると「あー、おきた」と、のびをしたり、あくびをしたり、それぞれいろんなポーズで起きる様子を楽しむことができます。眠る、起きるといった日常生活の中での経験で、動物たちがより身近に感じられる絵本です。

ボードブックとは・・・

本の紙が厚紙(ボード)でできている本のこと。幼児が自分で楽しむことを考えて、めくりやすく、小さなサイズのものが多いようです。子どもが一人で遊べるおもちゃの一つとして、丈夫で破れにくく、持ち運びしやすいので、人気があります。いろんな種類が出ていますので、好みのものを見つけてください。

のりもの　車や汽車などが描かれている絵本

がたんごとんがたんごとん

安西　水丸／さく　　（福音館書店）

まっ黒な汽車が「がたん　ごとん　がたん　ごとん」と走ってきます。そこへ、ほ乳瓶が「のせてくださーい」と声をかけます。それからコップとスプーンが、続いてりんごとバナナが、最後にねことねずみが「のせてくださーい」。みんなにぎやかに乗り込んで、やがて終点に到着。汽車から降りたみんなは、女の子といっしょにテーブルを囲みます。

「がたん　ごとん　がたん　ごとん」という繰り返しの言葉のリズムが耳に心地よい絵本です。言葉に合わせてお膝の上で揺らしてあげれば、赤ちゃんも乗客気分！

のせてのせて

松谷　みよ子／文　東光寺啓／絵
（福音館書店）

まこちゃんがおべんと持って、いってきまーす。さっそうと走るまこちゃんの車は大人気！赤いおめめのかわいいうさぎに、大きなくまさん、ちっちゃなねずみの親子、と動物たちが次々と乗り込みます。「ブブーブブー」と気持ちよく走る車は、やがてまっくらなトンネルの中へ。

林を抜けて山に囲まれた町へ向かう、まこちゃんたちを描いた最後のページも楽しく、愉快なイメージがぐんぐんふくらむ夢のある一冊です。まこちゃんになりきった赤ちゃんからは、思わず「ブブー　ブブー」の声が聞こえてきそうですね。

ぶーぶーじどうしゃ

山本　忠敬／さく
（福音館書店）

本物そっくりに細かいところまで丁寧に描かれた車の絵と、赤ちゃんにやさしく語りかける短い言葉。普段見慣れていて、よく知っている車がたくさん出てきます。「ぷーぷー」「ぶーぶー」「ぱーぽー　ぱーぽー」「ぴーぽー　ぴーぽー」など、いろいろな車の特徴をきちんと表した音とテンポのよい掛け声が心地よく耳に残ります。絵本の中に小さく描き込まれた男の子と一緒に、一台一台じっくり楽しめることでしょう。乗り物好きの赤ちゃんを夢中にさせる絵本です。

たべもの　　身近な食べものが描かれている絵本

くだもの

平山　和子／さく　　（福音館書店）

もも、なし、りんご、みかんなど実物に近い大きさで描かれた、本物そっくりの果物はまるで写真のよう。皮をむいて、食べやすい大きさに切って「さあ、どうぞ」。

優しい語りかけの繰り返しに、実際そこに果物があるかのように、思わず手をのばしてしまう赤ちゃんもいるようです。

果物という生活のなかの身近なものが、次から次へと出てくること、季節感あふれるくだものが、色彩豊かに描かれていることが、とても印象的な絵本です。

離乳食を始める頃から楽しめるかもしれませんね。

まるくておいしいよ

こにしえいこ／さく　　（福音館書店）

「これなあに」大きな赤色の丸がひとつ。ページをめくると、その大きな丸の正体は、なんとチョコレートケーキ。次は、黄色い丸がいっぱい。黄色くて、丸くて、おいしいものってなんだ？ビスケットにクッキーでした！丸くておいしいものって、何があったかな？あれかな？それともこれかなぁ？といろいろ想像して、考えてみるけど、これがなかなか当たらず難しい…。

ごはんやおやつの時にも、丸くておいしいもの探しをしてみるのも楽しいかもしれません。

おにぎり

平山　英三／ぶん　平山　和子／え
（福音館書店）

お母さんらしき大人の手が、おにぎりを握って作り上げていく様子を描いています。ごはんをほぐす右手とお釜を持つ左手。その脇に梅干しとお塩とボールに入った水。さあ、用意は整いました。準備万端！

炊きたてのごはんの湯気や、ごはんに巻かれてしっとりと馴染む海苔の様子などが細かく描かれており、おにぎりを食べる人への愛情が感じられるようです。

また、「あつ、あつ。ふっ、ふっ」などリズミカルな語りかけも楽しい絵本です。

しろくまちゃんのほっとけーき

わかやま　けん／作　　（こぐま社）

しろくまちゃんが、お母さんと一緒にホットケーキを作ります。道具と材料を用意して、さぁ、ホットケーキ作りのはじまり！卵を割って、牛乳を入れて、よくかき混ぜます。小麦粉・お砂糖・ふくらし粉、みんな混ぜてあとは焼くだけ。

「ぽたあん」「どろどろ」「ぷつぷつ」…とホットケーキの焼けていく様子が、リズミカルな言葉で表現され、赤ちゃんはこの音と出来上がりまでの様子に興味を持つでしょう。絵本の中からとてもおいしそうなあま～い、いいにおいがしてきそうです。

〈こぐまちゃんえほん〉シリーズは全部で１５冊。どのお話もシンプルな絵、はっきりとしたカラフルな色使いで、楽しく描かれています。それぞれ、食べる・作る・遊ぶ・お出掛けするなどといった生活に密着したストーリーです。

時々失敗してしまうこぐまちゃんを身近に感じられるかもしれません。

絵本を読むことと体験すること

現実に体験すること（実体験）は何にも代えがたい大切なこと、特に乳幼児の頃は、それがほぼすべて成長につながってゆくものです。例えば、その体験したことを、絵本で見て、聞いて、主人公と同じように、もう一度体験（追体験）したとしたら…？子どもだけでなく、大人も経験したことが自分の中でより深く広がってゆきます。心に残るということかもしれません。

お散歩やひなたぼっこなど、五感で自然を感じたり、実際におうちの人が食事を作る様子などを見たりしていると、その経験と絵本の中で描かれていることとがいつの間にか心の中で結びつき、経験を重ねることになります。絵本を読み語ってあげることももちろん大切ですが、子どもと大人が一緒に体験することに勝るものはありません。いろんな体験を共感できるようなお気に入りの絵本が見つかるといいですね。

「『ちょっとだけ』 瀧村有子／さく 鈴木永子／え （福音館書店）」より

せいかつ　日常生活が描かれている絵本

いいおかお

松谷　みよ子／文　瀬川　康男／絵
（童心社）

本を開くと、ふうちゃんが一人でおすまし、
“いいおかお”。
そこへ次々「いいおかおみせて」と動物たちが
やってきます。そしてみんなでおすまし、
“いいおかお”。
読み手の優しい語りかけは赤ちゃんの耳に楽しく、
赤ちゃんの反応は読み手の心をあたたかくします。
ついついみんな“いいおかお”になってしまいそうな
この本で、至福の時間をはぐくんでください。

おつきさまこんばんは

林　明子／さく　　（福音館書店）

家の窓に灯がともり、夜のとばりが降りるころ、すまし顔のお月さまのお出ましです。「おつきさま　こんばんは」ところが、そこへどこからともなく黒雲がやってきて…。
濃紺と黄色のシンプルな色づかいと、お月さまに語りかける美しい言葉が際だちます。目と耳からすーっと心に入ったおはなしは、いつまでも残るもの…。いつか夜空に光輝く本物のお月さまを見たとき、「おつきさまこんばんは」と自然に言葉が出ることでしょう。
お月さまの表情の変化や２匹のねこの様子など、細部まで楽しめる、手のひらサイズの小さな絵本です。

おててがでたよ

林　明子／さく　　（福音館書店）

頭から赤い服をかぶった赤ちゃんが、一人で服を着ようとしています。「あれ　あれ　あれ　なんにもみえない」「おててはどこかな」ぱっと左手が出てきます。
「おててがでたよ」「あたまはどこかな」ぬうーと頭が出てきます。最後にあんよが出てきて…。
おててにあたまにおかおにあんよ、みーんな出てきて、うれしくてにっこり笑顔の赤ちゃん。真っ赤なほっぺやぷくぷくとした手足、いろんな表情や仕草など赤ちゃんの特徴を愛らしく描いた絵本です。
赤ちゃんの指さしが出だす頃、自分の顔と絵本とを比べて読んだり、また、お着替えがちょっと楽しくなりそうな一冊です。

きゅっきゅっきゅっ

林　明子／さく　　（福音館書店）

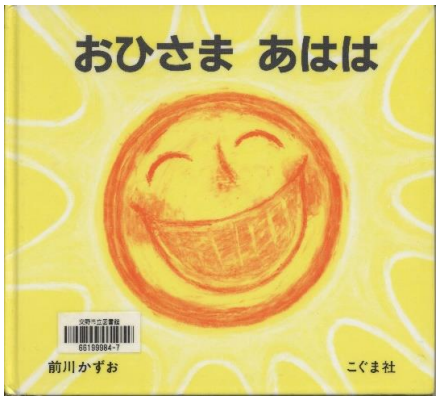
　赤ちゃん、ねずみさん、うさぎさん、くまさん、仲良く並んで、「おいしいスープ　いただきまーす」。

　いつもはお母さんにふいてもらっている赤ちゃんが、せっせとぬいぐるみの世話を焼いている姿をかわいらしく描いています。食べることは生活の基本、だったら楽しく食べたいものです。オレンジと緑の色を存分に使ったのびやかな絵でそれを表現しています。

　一人でスプーンが持てるようになった頃、自分と重ねながら楽しめる絵本でしょう。「きゅっきゅっきゅっ」の合い言葉で親子でごはん！

おひさまあはは

前川　かずお／作・絵　　（こぐま社）



　大きな木も、小鳥も、ひまわりも、子犬も、魚も、ページの隅の虫までも、本当に幸せそうに笑います。素朴な絵ですが、柔らかな線で描かれる笑顔は、お日さま色に輝いていて、読み終わったら文句なしに明るい気分になるでしょう。

　外遊びが楽しい頃、夜寝る前のお布団の中で、あるいは雨の多い季節など「明日はこんなお天気だといいね」なんていいながら読むのもいいですね。

　実は笑うことはとても大切なこと。それをあらためて気づかせてくれる素敵な一冊です。

　金色のスマイルでみんなハッピー!!

あそび　いろいろな遊びを描いている絵本

なーんだなんだ

カズコ・G．ストーン／さく
（童心社）

「なーんだ　なんだ　くろいのなんだ」「なーんだ　なんだ　くろいのふたつ」…から順に少しずつ姿を見せるのは…パンダさん！

赤をバックに白黒コントラストのはっきりとしたパンダの絵が目を引きます。最後にはパンダさんに抱かれた小さなパンダくんも登場。おひざに抱っこで、パンダさん親子に「こんにちは！」。元気にごあいさつしてあげてください。「なーんだ　なんだ」という問いかけと絵の展開で物語が進んでいく、楽しさにあふれた絵本です。

ぴょーん

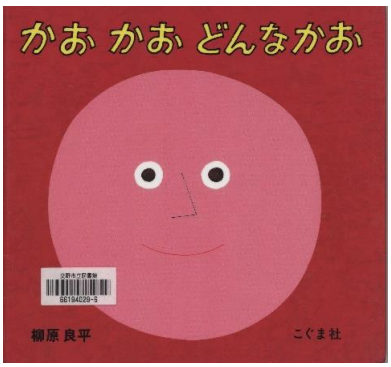
まつおか　たつひで／作・絵
（ポプラ社）

「かえるがぴょーん」「ねこがぴょーん」「いぬがぴょーん」「バッタがぴょーん」…。

小さな子にもわかりやすい言葉と動きの繰り返しが楽しい絵本。縦向きに本を開くと、前のページでじっと準備をしている動物たちが、次のページで思いっきり高く跳びはねます。動物たちのジャンプをする姿はリアルなのにとてもユーモラス。あんまりジャンプが得意でない動物たちも一生懸命跳ぼうと頑張ります。見ている赤ちゃんも思わずいっしょに「ぴょーん」とジャンプをしたくなるはず。抱っこして「ぴょーん」とさせてあげたり少し大きくなったら自分で「ぴょーん」と跳んだりして遊ぶこともできる絵本です。ふれあい遊びの一つとしてもオススメです。

かおかおどんなかお

柳原　良平／作・絵
（こぐま社）



視覚の発達していない赤ちゃんは丸い形が好き。その中に点があったらもっと好き。その点が２つ以上あれば尚喜びます。そしてそれはまさしく人間の「顔」。そんな赤ちゃんの大好きな「顔」の絵本です。

丸い顔に「めがふたつ」「はなはひとつ」「くちもひとつ」…。シンプルな絵ですが、大胆に描かれる顔に赤ちゃんは釘付けです。続いて「たのしいかお」「かなしいかお」と様々に変化する顔・顔・顔。ページをめくるたびに変わる顔にあわせて、赤ちゃんのいろんな表情が見られるかもしれません。

きんぎょが　にげた

五味　太郎／作　　（福音館書店）

「きんぎょが　にげた。」「どこに　にげた。」で始まり、金魚鉢から逃げ出した金魚が、カーテンの中や植木鉢の中などいろんな場所にかくれます。「こんどはどこ。」の問いかけが楽しい絵本です。

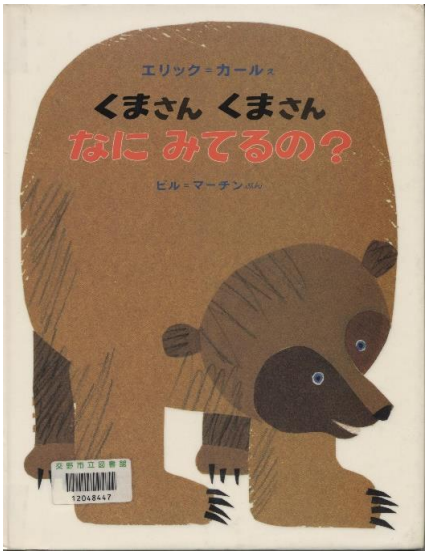
絵はあたたかで、色はカラフルで見ていてワクワクします。初めて見る子どもは真剣に金魚を探しますが、何度か読んでいると、得意気にかくれた金魚を見つけ出します。最後は仲間たちのいる水槽にかくれますが、さぁ、探せるでしょうか？

ものの名前がわかってきた頃に指をさして一緒に楽しめる絵本です。

五味太郎氏作品で、ほかにも絵さがしの本は、『たべたのだあれ』『かくしたのだあれ』もあります。もちろん少し大きくなった頃に読んでも、おもしろい絵本ですよ。

くまさんくまさんなにみてるの？

エリック・カール／え
マーティン，ビル／ぶん　　（偕成社）



『はらぺこあおむし』の作者、エリック・カール氏の作品です。

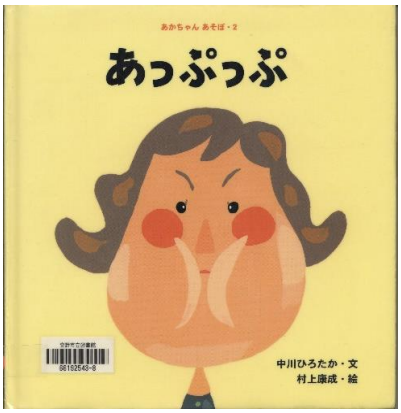
「くまさんくまさん、ちゃいろいくまさん、
なにみてるの？」と問いかけると、
「あかいとりをみているの」
赤い鳥に問いかけると
「きいろいあひるをみているの」
あひるは青い馬を、青い馬は緑のカエルを…、
と次々に続きます。いろんな色のいろんな動物が
登場し、最後にお母さんが出てきます。
さて、お母さんが見ているものは…？

微妙な色彩で彩られた絵は、鮮やかな色使いに
定評のあるこの作家ならではの美しさです。
少し大きくなってきた頃でも、オススメの一冊です。

わらべうた　　わらべうたの絵本

あっぷっぷ

中川　ひろたか／文　　村上　康成／絵
（ひかりのくに）



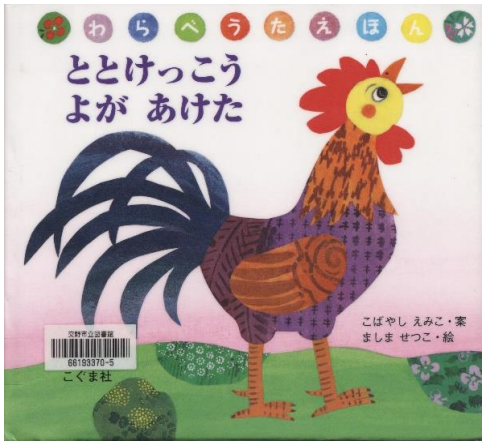
「だるまさん　だるまさん　にらめっこしましょ
わらうとまけよ　あっぷっぷ」…。

懐かしいわらべうたにユーモラスな絵がつきました。だるまさんの次はおさるさん、ぶたさん…いろんな動物たちとにらめっこ。
最後は手ごわいお母さんと勝負です。

次々繰り出される、とっておきの面白い顔に、思わず笑ってしまいます。
読んだ後はいっしょににらめっこの本番。
次々と変わる人の表情は、ふれあい遊びにぴったり！
向かい合ってもたくさんでも、楽しめるでしょう。

ととけっこうよがあけた

こばやし　えみこ／案
ましま　せつこ／絵　（こぐま社）



「ととけっこう　よがあけた
まめでっぽう　おきてきな」…。

元気なニワトリさんが動物の子どもたちを起こしてまわります。

わらべうたを元に作られた絵本。素朴で優しい言葉と心地よいリズム、口ずさみながら手や体をふれあう楽しさ、それに繰り返しなど、赤ちゃんの喜ぶ要素がたくさんあるようです。

朝起きてきたとき、ほっぺをつついて「ととけっこうよがあけた　〇〇ちゃん　おきてきな」とするのも、楽しいかもしれません。

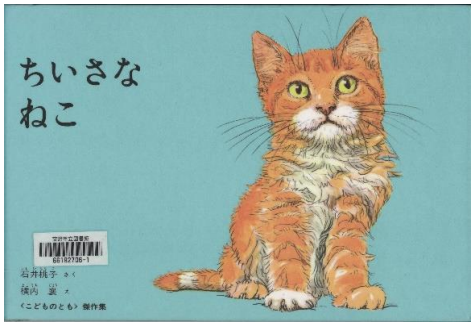
同じシリーズで『せんべせんべやけた』『ちびすけどっこい』『まてまてまて』があります。いずれも巻末に小さな楽譜が付いています。

わらべうたが見直されている現代の子育て、それに関する本やＣＤもたくさん出版されています。たいてい、スッと口ずさむのと耳になじみやすい２～３音階で構成されているものが多いようです。
昔から歌い継がれてきたわらべうたは、その地方や地域の特色（訛りや方言、言い伝えなど）があり、それが特徴とも言えるでしょう。伝承されてきた昔話やわらべうた、それに現代の絵本の読み語りは、方法こそ違っていても、語りかけるものとしての目的は同じ。
伝わる言葉は子どもの心にやんわりしみこんでゆくのでしょうね。

おはなし（物語）　ストーリー性のある絵本、初めての物語に

ちいさなねこ

石井　桃子／作　横内　襄／絵
（福音館書店）



小さなねこが、お母さんねこが見ていない間に庭に降りて走り出します。飛び出した外の世界には危険なものがいっぱい！聞き手の子どもは主人公の子猫になったつもりで冒険します。ドキドキハラハラして聞いている子どもは、最後の、犬に追いかけられて危ないところを母ねこが助け出し、家に帰ってそのお母さんのおっぱいを飲むという安心感のある結末にホッとするでしょう。

そろそろお話が聞けるかなと思った頃、初めての物語に読んでみてはいかがでしょう。

おおきなかぶ

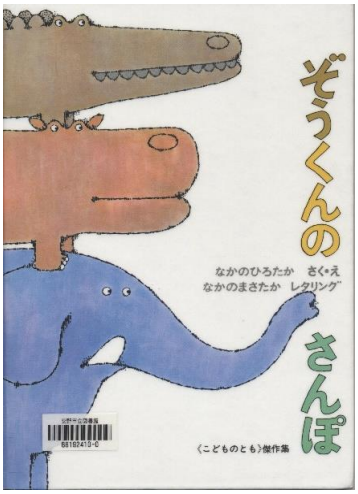
A．トルストイ／再話
内田　莉莎子／訳　佐藤　忠良／絵
（福音館書店）

おじいさんがかぶを植えました。「あまい　あまいかぶになれ。おおきな　おおきな　かぶになれ」。おじいさんの願いがかなって、立派なかぶができました。ところが、大きくなりすぎて…。おばあさん、まご、いぬ…と次々に仲間を呼んで手伝ってもらいますが、かぶはなかなか抜けません。さて、どうなることやら。

繰り返し出てくる「うんとこしょ　どっこいしょ」の掛け声に、聞き手もいつのまにか声を合わせて、思わず力も入ります。ロシア民話の世界が深みのある色彩で描かれ、ページの真ん中にどっしりとすえられたかぶの絵は、重量感たっぷりです。

ぞうくんのさんぽ

中野　弘隆／絵・文　　（福音館書店）



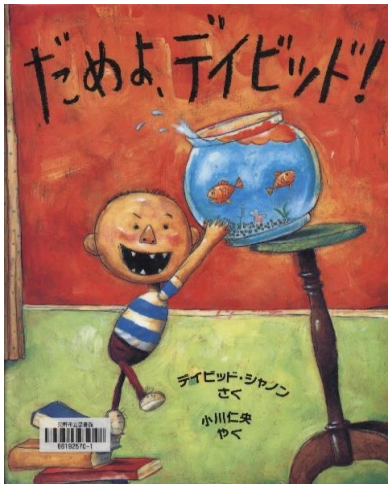
今日はいい天気。ごきげんなぞうくんは散歩に出掛けます。途中でかばくんに出会い、散歩に誘うと、かばくんは「背中に乗せてくれるなら、一緒に行くよ」と言います。ぞうくんがかばくんを背中に乗せて散歩を続けていると、わにくん・かめくんたちと出会います。友だちを次々と背中に乗せていくぞうくん。だけど、いくら力持ちでもちょっと乗せすぎじゃないのかな。

ページをめくるたびに登場人物が増えていく展開、会話の繰り返し、お散歩、水遊びなど、子どもの大好きなものがたくさん詰まっています。ほのぼのとした雰囲気のおはなしの中、最後の愉快な結末がなんとも楽しく、ごきげんな気分にさせてくれる絵本です。

大人へ・・・

だめよデイビッド

デイビッド・シャノン／さく
小川　仁央／やく　　（評論社）



どろんこで家に入る、お風呂で騒ぐ、裸のまま外に飛び出すし、食べ方は最悪。挙げ句の果てにデイビッドはとうとう…!?　ほーら、やっぱり！

縦長大きめ、見開きいっぱいに描かれたデイビッドの悪行の数々、幼児の特性を大胆にとらえたこの絵本は見応え充分。子どもはデイビッドに自分を重ねて思わずニヤーッ。

「こんなんしていいの!?」

かわいいハズの子どもが天使に見えなくなったときに読んでみてください。そしてラストページの気持ちを忘れないで。実は、子どもや子どもの育ちに関わる大人にとって、とても大切なことが描かれている作品なのかもしれません。

あとがき

大切なことは・・・

赤ちゃんへの読み語りに決まり事はありません。
赤ちゃんの反応や表情を見ながら、ゆったりと愛情をこめて
お話ししてあげてください。
大切なのは赤ちゃんが安心して聞けること、
大好きな人から読んでもらうこと、
そして、そのふれあうひとときを持つことなのです。
また、読み語りは赤ちゃんの生活に絶対必要不可欠なものではありません。
大人が疲れているときは無理せず休みましょう。
疲れた声で絵本を読んでも楽しくありませんものね。

最後に

少し大きくなってきたら、赤ちゃんにも性格や好き嫌いがはっきりしてきます。
本をなめたりかじったり、好みの絵本が決まってきたり、
何度も同じものを「読んで」とねだります。
まったく興味を示さない子もいるでしょう。
赤ちゃんにも個性や発達がありますから、反応はそれぞれ違います。
大切なのは絵本を介していっしょにいる時間・・・。
あなたと赤ちゃんの感性でたくさんの絵本と出会ってください。
一冊一冊が思い出深い絵本となりますように・・・。